

# モラロジー専攻塾 第22期生 人物研究発表会

専攻塾第22期生4名は、日本の今日を築いた人物、世界に貢献した人物の中から、各々が関心のある人物を選び、文献調査やゆかりの地を訪問し、研究を重ねています。つきましては、下記の通り発表会を行います。学びの秋、一緒に先人の生き方を学んでみませんか。みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

記

日時 平成24年10月14日(日) 13:00~15:30  
場所 廣池千九郎記念講堂  
発表者 第22期生 4名

## プログラムと要旨



13:00~13:05 開会挨拶

13:05~13:30 副島種臣 - 日本の主権を主張した外務卿 - 丸島英朗

副島種臣は、地元の佐賀以外ではあまり有名というほど知られてはいませんが、明治時代を代表する人物と言えます。彼は、「マリア・ルーズ号事件」において、誰もが責任回避を望むことに目を背けず、自分の信念を貫き、それらを解決することにより外国から賛美を与えられました。他にも、幾つかの国交問題を解決しています。何にも屈しないその心の根底には、日本国を愛する精神があったと言えます。領土問題などに追われる日本に今、必要なものとは何か、副島種臣から学んだことを発表します。

13:30~13:55 山岡鉄舟 - 「公平無私の志士」の生き方に学ぶ - 奥村祐司

山岡鉄舟は江戸無血開城の立役者であり、勝海舟、高橋泥舟とともに、幕末の三舟の一人として有名です。江戸の町を戦火から守ったことは、後に大きな影響を与えました。明治5年には、明治天皇の侍従に任ぜられ、国のために忠義を尽くしました。精神面においては、幼い頃から「剣」「禅」「書」に精通し、修練は一日も欠かしたことがなく、その修練ぶりは「鬼鉄」と言われるほどでした。「至誠」を生涯のモットーとし、主君や国に忠義を尽くした鉄舟の生き方に焦点を当てて発表したいと思います。

休憩(15分)

14:10~14:35 渋沢栄一 - 真に社会を利する実業家としての在り方 - 小松利彰

生涯を通じて500社もの起業をし、しかもそのこと自体が社会貢献と両立であった「日本資本主義の父」渋沢栄一。その生涯は尊王攘夷の志士から一橋家の家臣、大蔵省出仕から実業界や福祉事業へと幕末維新の激動を反映した波乱に満ちたものでした。彼の人生を支えた思想やその人間性に迫りたいと思います。また起業家を志す私が「真に社会を利する」という高い志を持ち実践し続けた渋沢の姿から学んだ事を発表します。

14:35~15:00 栗林忠道 - 「日本の父」が残した人間としての在り方 - 富澤晴加

昭和20年2月19日に始まった硫黄島の戦いで小笠原兵団の指揮官を務めた陸軍中将・栗林忠道。5日間で終結すると予測されていた戦いが36日間にも及んだのは、彼が生涯培ってきた知徳一体の精神、そしてどんなに過酷な状況の中でも、いつも心に家族の姿を映していたからです。幼少時代から硫黄島での玉砕に至るまで、彼が貫き通した精神について発表します。

15:00~15:20 感想・講評

15:20~15:30 閉会挨拶

発表当日タイトルが変更することがあります。



お問い合わせ先  
モラロジー専攻塾  
〒277-8654 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1  
電話 04-7173-3258  
e-mail juku@morology.jp